（第３種郵便物認可）　新聞定価 １カ月 8,500円（税別）／６カ月51,000円（税別）

■ 日刊建設工業新聞社 ■

支社
大阪 TEL 06(6942)2601 Email osaka@decn.co.jp
名古屋 TEL 052(961)2631 Email nagoya@decn.co.jp
横浜 TEL 045(201)3821 Email yokohama@decn.co.jp
関東 TEL 03(3433)7161 Email kanto@decn.co.jp
東北 TEL 022(222)4222 Email tohoku@decn.co.jp
九州 TEL 092(741)4605 Email kyusyu@decn.co.jp

総局
北海道 TEL 011(261)7653 Email hokkaido@decn.co.jp
千葉 TEL 03(3433)7161 Email chiba@decn.co.jp
北陸 TEL 025(229)5411 Email hokuriku@decn.co.jp
中国 TEL 082(221)7236 Email hiroshima@decn.co.jp
四国 TEL 087(837)5072 Email shikoku@decn.co.jp

オンラインサービス
記事検索・紙面PDF
ご購読者は無料で会員登録できます。
https://www.decn.co.jp/onlineservice

日刊 建設工業新聞

日建連講演会

ゼネコン4作業所長講演

生産性向上、担い手確保・育成

放任と統制のバランスが重要／元請の言動が現場力引き出す

失敗を水平展開し疑似体験を

教える・教わる側の「共育」を

日本建設業連合会（日建連）が、「作業所長による生産性向上に関する講演会」を12日に東京都港区の建築会館ホールで開いた。竹中工務店、大林組、戸田建設、大成建設の所長や所長経験者が、施工を指揮する立場から生産性向上と担い手の確保・育成への思いを語った。若手職員、技能者と向き合いながら生産効率を高めようと現場で奮闘する4人がそれぞれ語ったことは―。

（編集部・溝口和幸）

スコープ 建設現場

講演会は「一人でも多くの所長に聞いてもらうために土曜日に開催した」（日建連幹部）という

講演会は、国土交通省が建設現場の生産性向上策「i―Construction」に取り組み、政府の未来投資会議が建設現場の生産性を2025年までに2割アップする目標を設定したのを受け、生産性を左右する現場の「人」に焦点を当て、職場づくりや人材の育成・定着のヒントをつかんでもらおうと企画した。

建築生産委員会施工部会の会員企業24社などから所長クラスの職員ら約170人が参加した。冒頭、坂山修平専務理事は「（建築分野の）生産性向上のシナリオを本年度中に作る。先導役になってほしい」と呼び掛けた。

講演したのは、中野達男竹中工務店大阪本店本店長席総括作業所長、竹中秀文大林組建築本部本部長室部長、木村匡戸田建設関東支店建築工事部工事長、小林祥二大成建設東京支店新国立競技場整備事業作業所長の4人。

□　□

中野氏は「ハードはあくまでも生産性向上の道具で、使い切る頭脳が大事」と指摘。生産性向上のポイントに「組織の総合力」を挙げ、「知恵を集めた総合力のものづくり」を求めた。人材育成については、「いけないのは放任で、統制はさらに悪い。言わずに育つ感性の高い人材は少なくなっているかもしれないが、放任と統制のバランスが重要。若い人との向き合い方は永遠のテーマだ」と語った。

中野氏は4人の中で最年長。その経験を踏まえ、「100％の愛情がないなら100％で怒るべきではない」とアドバイスする一方で、学ぶ側にも「気力と覚悟」を求めた。

聴講者の思いを代弁するかのように「普段は現場をうまく統治することしか考えていない」と前置きした上で、「職場づくりと人づくりが所長の役割」と述べたのは竹中氏。

生産性の源泉となる現場の力を引き出すのは「責任ある元請の言動と行動だ」と指摘し、元請業者の手腕の重要性を強調した。技能者に「公平・平等」に接することの大切さも説いた。余裕がなく疲れた様子の新人技術者を職場の全員で見守ったエピソードも披露し、「失敗を笑い話にできるようになったら、力の付いた証拠だと思う」と述べた。

□　□

木村氏は、「日建連第1回けんせつ小町活躍推進最優秀賞」を受賞した働きやすい職場づくりの取り組みを紹介。2人がフォローし合うバディ体制によって休暇を取りやすくした工夫などを説明し、「1人で済むことを2人でする手間もあったが、諦めず、どうすれば働きやすい職場を形成できるか考えた。『なぜあの人だけ』というわだかまりが現場に出ないよう心掛けた」と振り返った。人材育成では、教える側と教わる側双方が意識を改め、共に育つ「共育」を提案。生産性向上には、工程を前倒しするフロントローディングを追求しつつ、「モバイル端末は閲覧にとどまりがち。アナログ技術とのバランスが大事」と述べた。

小林氏は、働きやすい環境を作ることによるモチベーションアップや、作業を効率化できる職長会の充実の重要性を挙げ、若手の教育は「どの現場でもできる」と指摘。

生産性向上のツールに、思いやりが伝わる共通仮設（休憩所、安全通路、トイレなど）の整備や、職長の意見をくんだ工事計画の立案などを列挙した。若手の育成については、「失敗を経験させるのが難しい。失敗を水平展開し、疑似体験させることも必要」と語った。誕生日に工具をプレゼントするなど会社の枠を越えて十代の技能者を現場の全員で育てる機運の醸成と、「監督ではなく技術者であり続け、集大成を提供する意識の堅持」も訴えた。

□　□

講演した4人と木谷宗一施工部会長のパネルディスカッションや聴講者との質疑応答も行われた。「現場をまとめる上で一番力を入れていることは」との質問に、中野氏は「工期は天気やトラブルで遅れる。仮囲いの中でどう気持ち良く仕事をできるかが安全にもつながる」、竹中氏は「立ち上げ時にはすべてに配慮がなされているかチェックする」とそれぞれ回答。木村氏と小林氏は「工程」を挙げ、小林氏は「工程がうまくいっているから安全や品質に気を配れる」と話した。

講演を聞いた浦江真人東洋大学教授は、「建設業は十分に魅力があると再認識した」と述べ、会社の垣根を越えた人材育成の場の充実を提案した。

木谷施工部会長は「こういう場をこれからも設けたい。魅力ある建設業にするには生産性を高め、深い人間性と広い社会性を具現化しないといけない」と締めくくった。

建設放

題字

347

結び、学園城郭都市「ふじと台」の成長を観察してきました。少なくとも年一回ふじと台を訪問していますが、その進化には目を見張るものがあります。

立派な電車の駅が造られました。特急電車「サザン」が全便停車するようになります。高台にはパルテノン神殿のような水道施設が造られています。分譲住宅の契約は着実に増加し、空き地が減少しています。駅周辺に新設されたマンションは即時完売の状況です。人口が着実に増加し、小学校の児童の学力はトップクラスです。

《ふじと台のコンセプトは大阪の通勤圏となる高級住宅地。イタリアやドイツの古い街を手本にした「学園城郭都市」を目指しています。文化的統一性のある街に、人と子供が安心できる環境を目指しています》

浅井会長は旺盛な行動力の持主です。浅井会長は自ら立案した計画を、ほぼ完全に実現してきました。驚くべき実行力です。

学園城郭都市「ふじと台」は、2800世帯約3万人の生活の場となります。着実な進化にあわせて「仕組づくり」と「ひとづくり」を進めています。浅井会長は、将来、ヨーロッパの古い町のような魅力ある文化都市に進化することをめざしています。

浅井瑛介会長はこう述べています。

《ふじと台のコンセプトは大阪の通勤圏となる高級住宅地。イタリアやドイツの古い街を手本にした「学園城郭都市」を目指しています。文化的統一性のある街に、人と子供が安心できる環境を目指しています》

浅井会長は旺盛な行動力の持主です。浅井会長は自ら立案した計画を、ほぼ完全に実現してきました。驚くべき実行力です。

学園城郭都市「ふじと台」は、2800世帯約3万人の生活の場となります。着実な進化にあわせて「仕組づくり」と「ひとづくり」を進めています。浅井会長は、将来、ヨーロッパの古い町のような魅力ある文化都市に進化することをめざしています。

（毎週火曜日掲載）

記者手帖

「コピペ」の誘惑

大学生のころ、レポートの課題の締め切りに追われ、誘惑に駆られたことがある。「参考文献をそのまま切り貼りしてしまおうか…」。パソコン操作でよくやるコピー・アンド・ペースト、通称「コピペ」である。コピペによるレポート作成はもちろん固く禁じられていた◆先日取材したあるシンポジウムで、大学で教えている建築家が学生のコピペレポートについて経験談を語っていた。「コピペの中にも、情報の取捨選択がうまい『頭目にすることがある。そんな時、一概に駄目だと言うことをためらってしまう」◆コピペ元の文章にも良い部分と悪い部分がある。情報を組み合わせて良い面を引き出すことは一種の才能ではないかということらしい。確かに、とも思う。欲しい情報をインターネットで瞬時に得られる時代に、それは「優れた能力」には違いない◆しかし、何のためになるのかと疑問にも思う。自分の力で情報を集め、新しいものを生み出す。それは苦労も多いが、楽しい作業でもある。記者の仕事と同じだろう。

本紙連載「建設業で本当にあった心温まる物語」漫画に

マンガはKKCが進める「建設業職者増加プロジェクト」の一環として制作。学生たちが書籍を読み、好き題材を漫画にした。学生の一人は一事の中身が分からないので、現場の景を描くのに苦労した」と話していた。

同プロジェクトでは、建設業の魅を中・高校生や一般の人に知ってもおうと、専門学校の学生たちとKKCのメンバーが協力して、建設業に関したゲームアプリや動画などを制作無料公開している。冊子の希望者はKC事務局（ハタコンサルタント、話052・533・9688）へ。

C、降籏達夫理事長）は、日刊建設工業新聞の毎週月曜最終面「ひと・交差点」に月1回掲載中の「建設業で本当にあった心温まる物語」を漫画化した冊子＝写真（表紙）＝を作成した。名古屋市内のトライデントデザイン専門学校の学生5人が、KKCのメンバーの協力を得て、五つの話を題材にして漫画を描いた。冊子は無料で全国の小中学校に配布する。「建設業で本当にあった心温まる物語」は、建設業従事者たちの実話に基づいたちょっと良い話をまとめた書籍。思わずほろっとくる話がつづられている。